

公表

事業所における自己評価総括表

| | | | |
|----------------|----------------------------|----|----------------|
| ○事業所名 | 山形県立こども医療療育センター 児童発達支援センター | | |
| ○保護者評価実施期間 | 令和6年 12月 2日 | | ～ 令和6年 12月 20日 |
| ○保護者評価有効回答数 | (対象者数) | 19 | (回答者数) 18 |
| ○従業者評価実施期間 | 令和6年 12月 2日 | | ～ 令和6年 12月 20日 |
| ○従業者評価有効回答数 | (対象者数) | 8 | (回答者数) 8 |
| ○事業者向け自己評価表作成日 | 令和7年 1月 22日 | | |

○ 分析結果

| | 事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること | 工夫していることや意識的に行っている取組等 | さらに充実を図るための取組等 |
|---|---|--|--|
| 1 | ・親子通園を基本としているため、困り感や成長の喜びを保護者と共有しながら、共にお子さんを観察しより良い方法について試行錯誤できる。 | ・保護者、職員間、多職種と積極的に気づきや疑問点を話し合っています。 | ・今後も親子のニーズに寄り添い話し合いを大切にしていきます。また、各種研修で学びを深めてまいります。 |
| 2 | ・医師、PT,OT,ST等、多職種と連携し支援できる。 | ・随時、リハビリの見学や多職種との情報交換を行っています。 | ・継続して情報交換の機会を設けていきます。特に年度初めや変化があった際は、様々な角度から情報を得てお子さんの理解に努めます。 |
| 3 | ・少人数活動であるため、ひとり一人の興味や発達に合わせた活動の工夫や提供ができる。 | ・友達とのコミュニケーションにつながるよう、大人が友達の代わりとなり、お子さんに合わせたスモールステップを取り入れています。 ・家庭での生活に生かせる工夫やアイテムを一緒に考えています。 | ・お子さんの発達状況の観察を丁寧に行っていきます。お子さんに適した多様な活動を提供できるよう、情報収集に努めていきます。 |

| | 事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること | 事業所として考えている課題の要因等 | 改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等 |
|---|--|---|--|
| 1 | ・当事業所以外の児童との交流が少ないこと。 | ・感染対策の観点から制限があります。 | ・感染状況に留意しながら、今後も公共の遊び場での活動を取り入れていきます。 |
| 2 | ・きょうだい支援の取り組みが少ないこと。 | ・きょうだい児について話せる機会が少ないことや、サポート体制の周知不足が考えられます。 ・感染対策の観点から、きょうだい児集団での活動に制限があります。 | ・きょうだい児支援の研修受講を重ね、サポート体制について検討してまいります。 |
| 3 | | | |